



大分大学工学部  
同窓会機関誌  
**翔工**  
第24号

大分大学工学部同窓会「翔工会」  
〒870-1192 大分市旦野原700 大分大学工学部内  
電話097-554-7804, 097-554-7823  
平成26年3月19日発行

## 機関誌「翔工」第24号の発行にあたって

同窓会長 松尾孝美



機関誌「翔工」第24号をお届けいたします。同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。また、平素より工学部同窓会の活動に対しますご支援とご協力に心より厚くお礼申し上げます。

今年度は、5名の先生方が退職されます。電気電子工学科電気コースの榎園正人先生、大久保利一先生、知能情報システム工学科の末竹千博先生、二村祥一先生、福祉環境工学科建築コースの佐藤誠治先生です。また、4名の技術職員の方々も退職されます。機械・エネルギーシステム工学科機械コースの奥林豊保先生、機械・エネルギーシステム工学科エネルギーコースの御手洗秀二先生、福祉環境工学科メカトロニクスコースの田原俊司先生、学術情報拠点情報基盤センターの秦卓司先生です。今回の機関誌では、退職される3名の先生方からこれまでの思い出のご寄稿をいただきました。多くの同窓生が大変お世話になった先生方です。これまでのご恩に厚くお礼申し上げます。

さて、工学部では、産業界の様々な分野で広い視野と専門性を備えたイノベーション博士人材の養成に取り組み、社会人博士課程学生の受け入れを積極的に行っております。今回も昨年と同様に、機関誌に博士課程の広報パンフレットを同封しております。同窓会員の皆様方におかれましては、博士課程へ進学をご希望される方がおられましたら、ぜひご相談くださいますよう、お願いいたします。

平成24年度から、全国の国立大学法人では、文部科学省主導のもとで、「大学改革実行プラン」が進行しています。特に、昨年から今年にかけて各学部、研究科の「ミッションに再定義」なるものが行われ、今後、この方針に基づいて、大分大学においても大きな改革が検討されているようで、今後の更なる飛躍に期待したいところです。工学部では、昨年9月に井上正文先生が工学部長を退任され、10月より豊田昌宏先生が就任されました。また、田中充先生が理事を退任され、工学部に復帰されました。今回の機関誌では、学部長に就任した豊田昌宏先生から、最近の大学を取り巻く状況説明、および同窓生へのメッセージのご寄稿をいただきました。

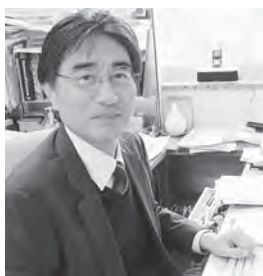
早いもので、大分大学工学部は、2022年に創立50年というおおきな節目を迎えます。これまでの多様な個性と人格をもった方々が卒業され、その人数は、実に11,618名にのぼります。最近、ひとつの極端な尺度でしか人を評価しない乱暴な風潮が目立ちますが、人生は千差万別、それぞれの思いの中で生きて来られています。思いやりのある世の中であって欲しいと思う今日この頃です。毎年1回郵送する機関誌ですが、これが、大学と同窓生とつなぐ重

要な役割を果たしています。同窓会というのは、同じキャンパスで若い時代を過ごしたという世代や空間を越えた人と人の共感を保持する場となっています。50周年に向けて、工学部のさらなる飛躍を願ってやみません。

末筆ではございますが、工学部同窓会の活動に、かわらぬご理解とご協力をお願いいたしますとともに、同窓生の皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

## 「平成25年の大分大学」

工学部長（応用化学科）教授 豊田 昌 宏



本工学部は、昭和47年に設置されてから、一昨年に創立40周年を迎えました。本年度は、昨年の工学部長からの報告においても触れられておりますミッションの再定義が決定し、公開されました。これは、「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）、「教育振興基本

計画」、「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」等を踏まえ、今後の国立大学改革の方針や方策、実施方針をまとめた「国立大学改革プラン」が策定するものです。これに伴い、大分大学でもミッションの再定義が求められ、工学部でもそれに対応して参りました。具体的には、大学、工学部と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、大学・学部の強み・特色・社会的役割（ミッション）を整理しました。工学部でのミッションの三本柱は、1）地域及びわが国の産業基盤を支えるものづくり産業の担い手たる高度技術者の養成（産学官連携+実践力要請）、2）技術立国たる我が国の高度な技術力を支える独創的研究の促進、3）地域経済・地域社会の発展と安心・安全な生活環境づくりを目指した社会貢献活動の促進（産学官連携）に力を注ぐことと考えております。これまでより、工学部では、質の高い特色ある教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材の育成、世界に通用する科学技術の創造並びに地域への貢献に取り組んでいることから、以下を強みや特色、社会的役割としてあげました。

◎自らの課題を探求するための高い学修意欲と国際性及び柔軟な思考力を有する人材を育成するという教育理念のもと、ゆるぎない基礎学力と専門知識を備えるとともに高い倫理観を有する高度な技術者等の育成の役割を充実するとともに、技術改革や新たな考え方、社会での新たな価値の創出につながる新規分野の開拓や理論の構築を先導し、実社会で活躍することができるイノベーション博士人材を育成する役割を果たす。

◎実践的教育によるIT技術者リーダーシップ養成プログ

ラムや地域との強い連携に基づく建築技術者養成などの特色ある教育を進めてきた実績を活かし、国際基準に合致した教育改革により、グローバル化に対応した人材を育成するとともに、地域の課題を俯瞰的な視点で捉え、整理・分析・解決することができる人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実に努める。

研究面においては、

◎統計科学など科学技術の基盤をなす基礎研究から、ヒト型スーパー抗体酵素の開発に成功した生命化学分野（医工連携）、ナノ炭素材料を医療に応用した材料化学分野（医工連携）や産官学一体となった共同研究体制のもとで顕著な成果をあげている電磁力応用技術分野などの優れた応用研究まで、幅広い工学の諸分野の研究を推進する。

今後、上述の再定義の下、教育・研究・社会貢献の分野で、大学・工学部の強みや特色を伸ばし、地域・社会に貢献できるよう努力してゆきたいと考えております。尚、一層のご支援、ご協力を戴きますようお願い申し上げます。

喜ばしい報告として、昨年11月に大分県功労者表彰式が行われ、本学から佐藤誠治教授と井上正文教授が表彰されております。土木、あるいは建築関連の長年にわたる業績が評価され今回の表彰となりました。



これ以外では、JST（科学技術振興機構）のCREST（戦略的創造研究推進事業）事業に永岡勝俊准教授のテーマが採択されております。次世代を担うエネルギーとして期待されている水素を利用する技術で、世界的な技術発信として評価されております。

この他に、工学部内の新しい施設として、工学部ピロティがリニューアルし、また、学生の自習室もリニューアルされて、明るい環境下で勉強が出来るようになっております（写真参照）。

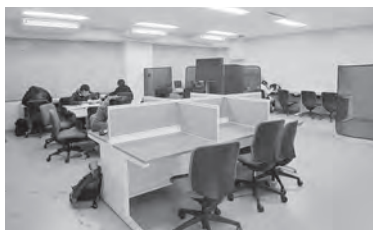
おわりに

アベノミクスで経済再生が進められる中、大学では、運

営、ミッションの再定義に基づく改組が大きな課題となっております。工学部でも改組の議論が始まっております。翔工会の皆様には、今後もご理解、ご協力を戴く必要が出てくることと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。最後に、皆様におかれましては、健康に留意され、ご活躍されますことを申し上げて、筆を置くこととします。



ーピロティ 掲示板ー



ー自習室ー



ー自習室外観ー

## 退職される先生方より

### 「数学とコンピュータと出会い」

知能情報システム工学科 教授 末竹千博



昨年の11月の下旬、熊本の平峰豊氏と共に京都でオレゴン大のW.Kantorに会った。Kantorは著名な有限幾何学の研究者で、現在は名誉教授であるが精力的に研究は続けている。アメリカの力ある

研究者は、退職しても大学に研究室を持っている。彼もそうだ。親日家で、奥さんの誕生日祝いのため観光で日本に来たらしい。ついでに日本の知人に会うというわけだ。何故私にも声がかかったのかと、理解に苦しむところだが。

彼との出会いは1989年。私の2番目の論文の審査委員であった。（論文審査委員は公表されないが、憶測でわかるときもある）当時私は兵庫県尼崎のある定時制高校の教師で昼は研究、夜は仕事の日々を送っていた。西明石から尼崎までJRで通い、職場の直前で数学を考えるのをストップさせるのに苦労していたことを思い出す。昼間は静の世界、夜は究極の動の世界で、今考えると実は極めてバランスのとれた生活をしてきたことになる。当時、有限単純群の分類が完成され、この研究に関わっていた研究者は様々な分野に散って行った。私は大阪教育大の大山豪先生（多重可移群の研究者）の有限幾何学のセミナーに参加していて、先生の論文「On quasifields」に大きな影響を受けて、任意次元の奇数位数のアフィン旗可移平面の構成に成功してKantorの審査を受けることになったのである。偶数位数の射影平面についてはKantorと彼の学生が構成

しており、奇数位数の場合の任意次元の構成が待たれていた。

ところで私は最初の論文からコンピュータの助けを借りて計算していた。最初に利用していた言語はBasicで、友人の酒井為治君（大阪府の高校教員、現在は退職）から配列文の書き方など教えてもらった。ターボパスカルやUbasicは大阪大に所属されていた平峰氏から教えてもらった。この3つの言語については、数学研究のためには健全な使い方をしていた。（最近では少々不健全のところもあった）つまり、実例をコンピュータで作り、その先は頭で考えるわけである。コンピュータで計算した結果をそのまま論文にすると、研究が停滞するという事は、研究人生の中で学んだ。例えば、ある有名な数学者は位数10の射影平面の非存在証明が、最後のとどめとしてコンピュータに頼った（符号理論）ので、有限射影平面の研究の進展を止めたと言った。賛否両論もあろうが、ある側面の真理は言い当てているだろう。

Kantorとの話は数学教育論にも及んだ。アメリカでも、最近では問題の解き方だけ覚えて考えることをしない、丁度コンピュータのブラックボックスの中から解答を引き出しているような由々しき問題がある。また数学教育の目的は何かなど。平峰氏はコンピュータのマニュアルを読むときに論理的な思考が必要である、数学的思考はそのために役にたつ。いや、妻(Kantorの)はマニュアルは読まずに、試行錯誤して使い方をマスターしている等々。

Kantorは言った。"Chihiro, after retirement what do you do?" 私は、躊躇しながらも"I study math."と答え

た。数学は若者の学問である。計算する馬力が必要なのである。老人は彼らと競争しても勝ち目は無い。ただ思考力は急激には落ちないし、コンピュータを良き友とすれば研究は出来ると思う。

最後に教員生活最後の9年間働く機会を与えていただき

## 「大分大学の33年を振り返り思うことなど」

福祉環境工学科／建築コース 教授 佐藤 誠 治



このたび、大分大学における33年間の教員生活を閉じるにあたり工学部同窓会誌上にてご挨拶できることを大変ありがたく存じます。このような挨拶ができることは望外の喜びであります。これまで皆様方から頂きましたご厚情の賜であると深く感謝申し上げる次第であります。

振り返りますと、1981年4月、国立八代工業高等専門学校から大分大学工学部建設工学科助教として赴任したときは32才でした。一応博士の学位は取得してはいましたが、研究者としてはその緒に就いてそれほど成果を上げた段階ではありませんでした。当時、建設工学科では4つの講座が開設されており、私は計画系の講座に所属し、片岡正喜教授、友田直助手と共同で研究を開始しました。上口清彰、中武啓至技官には大いに支えられました。その後、有田幸生助手が着任され、共同で調査や研究を実施しました。片岡教授は建築計画を専門とされておりました。私は大学院時代から都市計画系の研究をしておりましたので、数年後には片岡教授に御願ひして、都市計画系の研究を少し独立的にさせて頂くようになりました。

廻りますが、1982年度に大分市から受託した「国土利用計画大分市計画」のための土地利用計画基礎調査が大分に赴任してからの本格的な研究のスタートとなりました。もともと土地利用解析の研究は熊本大学大学院、九州大学大学院の頃からかなり鍛えられていましたので、作業量は膨大でしたが心地よい疲労感を持って研究を進めることが出来ました。電子計算機を多用した研究でしたが、当時のコンピュータの能力は低く、随分苦労しました。パソコン、当時はマイコンと言っていましたが、その初期の頃で、これには助けられました。

1988年度には概算要求の前倒しで、約4,000万円の予算で画像解析、図形解析のシステムを導入して頂きました。これが以後の研究を大きく進展させる強力な武器になりました。有馬隆文君を助手に迎えて、彼と二人三脚で研究をしました。このシステムを導入して、研究は土地利用から景観研究へとシフトすることになってきました。土地利用

は大分大学の皆様に感謝します。教育と研究を職業にする厳しさも味わいました。研究とは、静かな研究環境と広い視野を持ったすぐれた研究者たちとの議論が必要なのです。旅と弁証法的止揚が。

と景観は私の中ではきわめて強い関連があると考えていますが、奇しくも研究的にもその様な変化を遂げたとおっしゃいます。その間、最新鋭のワークステーションであるヒューレット・パッカード社の3次元CGを多用したプロジェクトを積極的におこないました。有馬君はその成果をもって九州大学で学位を取得し、1998年に助教として九大に赴任しました。

さて、後任には小林祐司君を迎えて、土地利用研究は緑地の研究として変貌することになりましたが、景観研究は継続して進めました。緑地の研究はランドサットという地球観測衛星のデータ解析を主体とする研究で、新しい分野を切り開いたと言えるでしょう。また研究を中国にも広げました。緑地と景観研究の融合も関心のあったところでした。この間比較的大きな科研費を続けて獲得して、研究を進める事が出来たのも幸運でした。

景観研究には姫野由香さんが助手として参画し、解析的な研究から、現場を押さえた研究へと展開していきました。湯煙景観と言う、地域性のある研究テーマを掘り起こして、言わば一世を風靡するような成果に仕上げたのも姫野さんの力が大きかったと思います。2001年度には1年間だけでしたが、博士課程修了の厳男さんが助手として勤務し、中国の水郷景観についての研究をおこないました。

この間、土地利用研究も景観研究も学部生はもちろん、博士前期課程の大学院生、後期課程の大学院生の力が大きかったと思います。1995年、平成7年には博士課程が設置され、研究室の研究も博士課程の研究を進める事が主要な任務になったと言っても過言ではありません。毎日早朝から夜遅くまで喧々譁々でしたが、良く酒も飲みました。建設棟4階は不夜城と言われていたのもこの頃でしょう。その結果、1998年から2012年までほぼ毎年、合計17名に博士の学位を授与しました。先の有馬君を入れると18名になります。18名の博士の3分の2は外国人留学生でした。

特に博士課程の留学生については研究テーマを自国の研究課題に求めて行くのは当然の成り行きです。自国の課題を日本の学術で解くという大袈裟でしょうか。韓国、台湾、中国、インドネシア、マレーシアと、研究対象は広がっていきました。もちろん研究テーマは土地利用と景観が主体です。一方で、九州大学の恩師、光吉健次教授が先鞭をつけられ、萩島哲教授が大きく発展させた国際研究に参加させて頂き、インドネシアや韓国の研究者との共同研

究は研究室の国際化を進める上でもっとも大きな効果を発揮したと言えると思います。国際化については萩島教授に恩があります。

さて、助教授の時から博士課程の設置にWGの一員として参画した関係で、学内運営に引っ張り出されるようになってきました。1991年、平成3年に教授昇任をしてから一層その傾向が強まって来ました。平成11年に地域共同研究センター長、平成15年評議員、学長補佐（社会貢献）、平成17年、理事（国際・社会連携担当）・副学長、平成23年、副学長（学術情報拠点長）と就任が続き、研究だけに専念することが出来なくなってきました。これを補ってあまりあるのが、准教授に昇任した小林祐司君と助教の姫野由香さんでした。そして、彼らが新しい研究分野を切り開きつつありますことは誠に心強い限りであります。そして縁の下の力持ちとして研究室を支えている菅蒲亮技術職員に負うところが大きいのであります。

私は、研究と教育は表裏一体と思っています。学生を育てるためには研究をしないとだめである。研究だけではだめである。教育と研究が一体となって初めて大学であると考えています。学生を研究現場に引っ張り出し、「君たちにはなんでもできるんだよ！」と、はっぱをかけて何でもやらせる、また外国との交流にも積極的に学生を前に押し出すことを心がけてきました。学生の心に「火を付ける」ことを心がけたと言えると思います。

国際交流協定も積極的に締結することに努力しました。そして締結後のメンテナンスにも力を入れました。特に韓国の釜山大学（密陽大学）との研究交流と学生のデザインワークショップ、学生の研究発表交流を実施した韓国の西京大学、嘉泉大学（暎園大学）、光州大学、順天大学、江陵原州大学（江陵大学）、ハンパット大学、中国の南陽理

工学院、江南大学は記しておく必要があります。これらの大学には研究室の教え子が教員等で在籍するなど活躍しています。

研究成果を地域に戻すと言うこと、社会貢献は大学人に課せられた第3の任務であります。私は、依頼された事を“断らない”ということをもットーにしました。だから忙しくなるのですが、これも仕方がないことと割り切って進めました。良かったか、悪かったかはそのうち判定が出るでしょう。

最後になりましたが、これまで研究室で活動をともにしてくれた学部生、大学院生、そして教員、職員にまず感謝したいと思います。そして、学科、学部をはじめ、大学の皆様方には大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。もちろん、他大学、産業界、地域の住民の皆様や行政をはじめとする地域社会には本当にお世話になりました。感謝申し上げます。

大分大学の33年間お世話になったことに対する感謝を胸に、大学を去ります。ありがとうございました。



—東アジア建築都市デザイン  
ワークショップ参加者—

## 「工学部での37年間を振り返って」

### 工学部技術部 技術専門員 奥 林 豊 保



技術部の奥林と申します。同窓会長の松尾先生より本年3月の定年退職にあたり、技術部職員退職者4名を代表して、一言書いてくれませんかとの依頼（命令?）を受けペンを執った次第です。なお、今年度末を以って私の他に田原俊司（福祉環境工学科・メカトロニクスコース）、御手洗秀二（機械・エネルギーシステム工学科エネルギーコース）、秦卓司（学術情報拠点情報基盤センター）の3名の技術職員が、区切りとなる定年（再雇用制度により実際の退職は少し先になります）を迎えますことをこの場を借りましてご報告致します。

折角の機会ですので、工学部技術部について少し紹介します。ほとんどの卒業生は技術部の存在を知らないと思いますが、平成19年5月に各学科の技術職員（法人化前は技官）をまとめて工学部技術部が誕生しました。組織は専門分野別に4系8班に分けられ、平成26年1月1日現在39名の技術職員が在籍しています。業務の内容は組織化以前に属していた学科や講座の業務が主ですが、短期的な業務として技術部の能力を全学で生かすべく、他学部や事務局からの要請にも対応しています。他にも小学生を対象とした出前実験教室など技術部独自の活動も行っていますので、興味のある方は技術部のホームページ（大分大学工学部技術部で検索）を覗いてみてください。

それでは簡単に自己紹介をします。私は昭和51年11月に当時の機械工学科（現：機械・エネルギーシステム工学科機械コース）に採用され、以来37年間機械教室のお世話になっています。専門は流体力学で、新型バルブの開

発、ターボファン等の性能改善および風力、水力エネルギーの利用に関する業務を主に行ってきました。趣味は少しばかりの運動と旅行です。10年程前まではテニスなどの球技をやっていましたが高齢化に伴い腰痛が酷く、現在は腰痛の緩和と寝たきり老人にならないよう筋トレで体を労わっています。また、どうせ1回こっきりの人生と言うことで、旅行は2年に1度海外へ行くよう心掛けています。テレビの画面からは得られない現地の空気感(温度、湿度や匂い)が非日常へと導いてくれると同時に、我が国の良さを再認識でき、心身ともにリフレッシュできます。たまにリフレッシュが過ぎ、老化現象の表れか旅行前にやり残した仕事内容を思い出すのに時間がかかり、充電ではなく放電となることもしばしばです。

これまで長い間お世話になった職場について少し触れておきたいと思います。私が入職したころの機械工学科は、もう退職された津田、鹿毛、濱武先生らが30過ぎのバリバリ元気な頃で、特にスポーツに対するこだわりは強く、学科対抗のソフトボール大会では負けられんと、気合を入れていたのを思い出します。優勝をしても活躍した人を褒めるわけでもなく、負けようものなら、お前があそこでエラーしたからとか、あそこで打てなかったからとか容赦ないお言葉が飛んできたものでした。この経験により少し打たれ強くなったと今では感謝しています。仕事に関しても当時のボス(篠原先生)は、私も学生と同様に文献紹介などをやらせたり、大学院が設置された頃でしたので、院生と一緒に講義に出たりと5~6年は丁稚奉公状態で厳しく育てて貰いました。このような環境のお蔭で本来ずぼらな性格も少しずつ修正されて、何とかここまで来られたものと今更ながら有難く思っています。

ここで学生との関係にも触れておきましょう。学生との関わりも年齢と共に変化してきました。最初の頃は学生と歳もほぼ同じで、朝から帰るまでほとんど研究室では学生と過ごし、夜は飲んだり、遊んだりほとんど友達感覚でした。飲み会ではビール大瓶1本一気飲みや注がれる場合は必ずコップを空にすること等、当時は普通にやっていましたが、今では完全なアルハラですね。もう30年前の

ことなので、時効と言うことでご勘弁願います。それが30代の半ばになると兄貴分のような接し方になり、そのうち学生の親と同じ年になり、今ではほとんどの学生の親より年長者となり、情けないかな年配の卒業生からは体の心配をされるようになりました(中には葬式の時には連絡くださいと言う義理堅い?OBもいますが…)。また、定年間近いOBが突然訪ねてくることもあります。会社ではもうそれなりの地位についていますが、研究室に来ると学生時代に帰り、一気にタイムスリップして30年も前の話に花が咲く(ほとんどが失敗談や悪さをやらかしていたこと等)、これも楽しみの一つです。

37年もの間にはいろいろなことがありましたので、その中から期末試験に関する体験を2つほど紹介します。

その1、最近では本、ノート持ち込みの試験はほとんど見かけませんが、以前はよくありました。ある試験監督での事です。本、ノート持ち込みなのに手を挙げて「質問があります」と言うのでその学生のところへ行くと、自分のノートの一部分を指さして「こここのところ何て書いてあるのですか??」内心、自分が書いた字だろうがと思いながら、私「そう言う質問には答えられません…」。

その2、確か204号教室での事と記憶していますが、固定の机ではなく、一人用の机の教室での事です。ほとんどの学生は教室の後ろの方に座っているので、「前に詰めてください」と言っても動かざる事山の如しで、誰も席を詰めようとしません。次に少し強い口調で「前に来んか!!」と言ったらほとんどの学生はしぶしぶ詰めましたが、一人だけ頑とその場所を死守しようと動かない学生がいたので、「君も前に来なさい!」と言ったら、少し間をおいて彼は覚悟を決めたように自分の座っていた場所の机を持ち上げて机と一緒に前の方へ移動してきました。私もその執念に圧倒されて、その場はスルーしました。

最後になりましたが、今回このような機会を与えて下さった同窓会関係各位に感謝申し上げますとともに、工学部同窓会の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念いたします。長い間、誠に有難うございました。

## 大分大学統合10周年事業報告

同窓会長 松尾孝美

平成25年10月1日に、旧大分大学と大分医科大学が統合し、新しい大分大学が発足して10周年を迎えたことを記念して、統合記念事業がレンブラントホテル大分にて開催されました。文部科学省、国立大学協会、大分県知事、大分県出身の国会議員、県内市長などの招待者及び学内関係者など、約260名が出席して、記念式典、記念講演会、記念祝賀会が挙行されました。記念式典では、北野正剛学長が、11年目からの大分大学の取り組みに関する決意を

述べました。その後、広瀬勝貞大分県知事により「大分県にとって大分大学に期待すること」との演題で記念講演会がおこなわれました。さらに、祝賀会での来賓挨拶があり、盛況のうちに閉会しました。統合記念事業については、大学ホームページに写真などととも、報告させていただきますので、ご覧ください。

<http://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/topics/2013-025.html>

## 「大分大学と同窓生との交流会2013」報告

同窓会長 松尾孝美

平成25年12月8日に、各学部・研究科の同窓会員、名誉教授及び大学関係者約100名が参加して、ホテル福岡ガーデンパレスにおいて、「大分大学と同窓生との交流会2013」が開催されました。同窓生との交流会は今回で10回目であり、福岡での開催は6年ぶりでした。

今年の交流会では、北野正剛学長の開会挨拶があり、大学のおかれた状況と今後の展開についての挨拶があり、ついで、各同窓会を代表して工学部同窓会長である私が挨拶をしました。続いて、各学部長、福祉社会科学部研究科長から各学部・研究科の現状報告が行われました。その後、懇親会では、恩師（名誉教授）紹介後、恩師代表として元理事・副学長の有田真氏からの挨拶、さらに、教育福祉科学部同窓会「豊友会」会長園田和孝氏の乾杯の発声がありました。工学部卒業生も23名の方々にご出席いただき、たいへん和やかな会となりました。翔工会役員関係者としては、福岡支部の深田啓輔副支部長、戸高孝副会長、楠敦志会計と私の4名が参加しました。お忙しい中、ご参加いた

だいた方々に厚くお礼申し上げます。交流会の案内は福岡市内の方で、メールアドレス登録のある方は、電子メールで、他の方には郵送で送りましたが、届いていない方もいらっしゃったようです。また、同窓会Facebookにも案内を出しましたが、案内が行き届かず、ご参加できなかった方々に、この場を借りてお詫びいたします。なお、出席者の内訳は、つぎのとおりでした。出席者：教育11名、経済27名、医学部5名、看護1名、工学部23名、福祉社会科学1名、名誉教授3名、工学部教員1名、大学役職者13名、大学職員6名。今後とも、交流会は続いていくと思いますので、次回以降もご参加いただくと大変幸甚に存じます。なお、以下の大学HPに開催報告が掲載されております。

<http://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/topics/2013-050.html>

以下は、交流会懇親会の際の工学部同窓生の写真です。



## 同窓会活動状況

平成25年度の活動状況および現在の理事、評議員の名簿を以下に掲載いたします。

### ■ 活動状況

§平成25年6月10日（土）第1回理事会（大分大学にて）  
議題

- (1) 役員の交代について
- (2) 平成24年度収支決算書（案）について
- (3) 平成25年度予算書（案）について
- (4) 監査について
- (5) 平成24年度評議員会よりの検討事項について
- (6) その他

§平成25年8月2日（月）第2回理事会（大分大学にて）  
議題

- (1) 平成25年度評議員会について
- (2) 平成24年度監査状況について
- (3) 大分大学と同窓会の交流会について
- (4) 評議員会よりの検討事項について

(5) その他

§平成25年9月14日（土）評議員会（ホルトホール大分にて）  
議題

- (1) 平成24年度事業報告
- (2) 平成24年度決算報告
- (3) 平成25年度事業計画（案）
- (4) 平成25年度予算書（案）
- (5) 今後の同窓会の運営について
- (6) その他

評議員会終了後懇親会



－評議員会集合写真－



－評議員会懇親会－

§平成25年12月8日(日)

大分大学と同窓生との交流会2013(福岡ガーデンパレス)

次第

- (1) 交流会(宝満の間)
  - ・出席者紹介
  - ・学長挨拶
  - ・同窓会長代表挨拶  
(工学部同窓会「翔工会」松尾会長)
  - ・各学部の現状報告  
(各学部長、福祉社会科学部研究科長)
- (2) 懇親会(ガーデンホール)
  - ・恩師紹介
  - ・同窓生と大分大学関係者の意見交換・相互交流

§平成25年12月11日(水) 第3回理事会(大分大学にて)

議題

- (1) 平成25年度評議員会報告
- (2) 機関誌「翔工第24号」の編集について
- (3) 卒業記念品について
- (4) 統合10周年記念式典報告
- (5) 大分大学と同窓生との交流会報告
- (6) その他

§平成26年1月28日(火) 第4回理事会(大分大学にて)

議題

- (1) 機関誌「翔工第24号」の編集について
- (2) 卒業祝賀会および卒業記念品、退職記念品について
- (3) 平成25年度評議員会よりの検討事項について
- (4) 役員交代について
- (5) 卒業生の住所調査について
- (6) その他

§平成26年3月中旬 第5回理事会(大分大学にて)

§平成26年3月20日 機関誌「翔工第24号」発行予定

§平成26年3月25日 卒業祝賀会開催予定

#### ■ 支援助成事業等

§学科・留学生補助：留学生友の会(年会費)、各部会の学科行事補助(講演会補助など)

§支援助成事業(今年度申請なし)

#### ■ 理事名簿

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 会長  | 松尾 孝美(エネ昭55卒)              |
| 副会長 | 戸高 孝(電気昭58卒)               |
| 会計  | 楠 敦志(電子平2卒)                |
|     | 下地 広泰(博士課程平15修了)           |
| 顧問  | 新見 昌也(機械昭59卒・61院修了)        |
|     | 斎藤 国壽(機械昭53卒)              |
|     | 森 勝浩(機械昭63卒)               |
|     | 藤澤 徹(電子平5卒・7年院修了)          |
| 理事  | 松岡 寛憲(機械昭51卒、機械部会長)        |
| "   | 富永 昌明(修士課程在学、機械副部会長)       |
| "   | 平瀬 圭太(修士課程在学、機械代表理事)       |
| "   | 槌田 雄二(電気平4卒・6院修了、電気部会長)    |
| "   | 原 正佳(電気平3卒・5院修了、電気副部会長)    |
| "   | 下地 広泰(博士課程平15修了、電気代表理事)    |
| "   | 西島 恵介(組織平1卒・3院修了、組織部会長)    |
| "   | 賀川 経夫(組織平3卒・5院修了、組織副部会長)   |
| "   | 足立 徳子(組織平5卒、組織代表理事)        |
| "   | 牛ノ濱三久(応化平7卒・9院修了、化環部会長)    |
| "   | 甲斐 大貴(修士課程在学、化環副部会長)       |
| "   | 平野 遼(修士課程在学、化環代表理事)        |
| "   | 斎藤 晋一(エネ平2卒・4院修了、エネ部会長)    |
| "   | 矢田 健二(エネ平5卒・7院修了、エネ副部会長)   |
| "   | 眞部 真平(修士課程在学、エネ代表理事)       |
| "   | 黒木 正幸(建設平1卒・3院修了、建設部会長)    |
| "   | 田中 圭(建設平10卒・12院修了、建設副部会長)  |
| "   | 姫野 由香(建設平10卒・12院修了、建設代表理事) |
| "   | 楠 敦志(電子平2年卒、電子部会長)         |
| "   | 毛利 亮(修士課程在学、電子副部会長)        |
| "   | 後藤 智志(修士課程在学、電子代表理事)       |
| "   | 川野 晃平(修士課程在学、福祉部会長)        |
| "   | 江口 泰史(修士課程在学、福祉副部会長)       |
| "   | 吉規 悠太(修士課程在学、福祉代表理事)       |

#### ■ 評議員名簿

|      |       |                     |
|------|-------|---------------------|
| 大分支部 | 支 部 長 | 江口 正一(エネ昭54卒・56院修了) |
|      | 副支部長  | 吉野 清己(機械昭52卒)       |
|      | 副支部長  | 武田慎一郎(電子平13卒・15院修了) |
| 福岡支部 | 支 部 長 | 小田 誠雄(組織昭59卒・61院修了) |
|      | 副支部長  | 上田 和徳(建設平3院修了)      |
|      | 副支部長  | 深田 啓輔(化環平5卒・7院修了)   |
| 熊本支部 | 支 部 長 | 荻木 禎史(電気平3卒・5院修了)   |
|      | 副支部長  | 岩永 憲二(機械昭51卒)       |
|      | 副支部長  | 相良 和也(建設昭56卒)       |
| 大阪支部 | 支 部 長 | 雲井 将文(電気平2卒・4院修了)   |
|      | 副支部長  | 黒木 亮爾(電気平2卒・4院修了)   |
|      | 副支部長  | 平岡 学(機械昭63卒・平2院修了)  |
| 東京支部 | 支 部 長 | 柏原 康彦(機械昭56卒)       |
|      | 副支部長  | 後藤 正徳(エネ昭57卒)       |
|      | 副支部長  | 豊田 耕一(電気昭58卒)       |



# お知らせ

## ▪ 退職者の紹介

電気電子工学科電気コースの榎園正人教授、大久保利一教授、知能情報システム工学科の末竹千博教授、二村祥一准教授、福祉環境工学科建築コースの佐藤誠治教授、機械・エネルギーシステム工学科機械コースの奥林豊保技術職員、エネルギーコースの御手洗秀二技術職員、福祉環境工学科メカトロニクスコースの田原俊司技術職員、学術情報拠点情報基盤センターの秦卓司技術職員が平成26年3月をもって退職されます。

## ▪ 学位取得者の紹介

平成24年度博士学位を取得された方々を紹介いたします。(学位記番号順・敬称略)

相原 茂、瀬々真吾、長野宣道、武 金枝、麻原寛之、Kusno Kamil、Asniawaty Kusno、伊藤七恵

## ▪ 卒業証明書の問い合わせについて

最近、同窓会に卒業生から卒業証明書の問い合わせが多く見られます。同窓会では証明書等の発行業務は行っておりませんので、卒業証明書等のお問い合わせやお申込みは、下記のところをお願いいたします。

住所：〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

大分大学工学部学務係

電話：097-554-7757または、7758

## 研究室だより

### 機械・エネルギーシステム工学専攻 流体機械研究室 M2 朝倉健太 足立貴昭

私の所属する流体機械研究室は濱川洋充教授、栗原央流准教授の2名の先生方と、博士前期課程4名、学部生10名の計16名で構成されており、日々研究に励んでいます。主な研究テーマは管群構造体やターボ機械から発生する空力音の発生予測や対策など、騒音の低減化に関する研究を行っています。以下に3つのテーマについて簡単に説明します。

#### ・ボイラの管群における気柱共鳴現象の発生予測と抑止法に関する研究

発電所の大容量ボイラなどでは、あるガス流速に達すると気柱共鳴現象が発生し、振動と騒音が問題となることがあります。本研究では、この現象を設計段階で予測し回避するための設計法と新しい抑止法の研究を行っています。現在は、実機の相似模型を用いて共鳴現象を再現し、管群の配列を変化させたときの騒音の発生メカニズムを解明することで設計法や新しい共鳴抑止法を確立することを目標としています。

#### ・マイクロジェットによる空力音の低減に関する研究

航空機騒音の一つに、ジェットエンジンの排気から発生するジェット騒音があります。近年、その対策としてマイクロジェット噴射によるジェット騒音の低減化技術が注目されています。しかし、技術的に新しいため航空機以外の一般の機械製品への適用はまだ行われていません。そこで、本研究では、マイクロジェット噴射による騒音低減化技術を一般機械に応用するための研究を行っています。

#### ・ターボ機械から発生する空力音の予測および低減化に関する研究

ファンやタービンなどのターボ機械では、空力音が発生し問題となることがあります。これまでに様々な騒音低減化技術が開発されてきましたが、空力音は低下するものの空力性能も低下し、性能を補うため回転数を増すと騒音が増加するという問題が指摘されています。本研究では、翼の性能を低下させずに、空力音のみを低減する技術の開発を行っています。

### 電気電子工学専攻 電気コース 秋田研究室 M1 上田平 拓之

私たちの研究室は、秋田昌憲教授、緑川洋一准教授、西村安生技術職員の御指導のもと、博士前期課程2名、学部

生13名で研究に取り組んでいます。当研究室では、主に音声を取り扱っており、音声合成技術、雑音環境下における音声認識、また音声解析法を応用した体内信号解析が主な研究テーマとなっております。これらの研究テーマの中から、雑音環境下における音声認識の研究概要について簡単に説明させていただきます。

雑音環境下においては、会話が聞き取りづらいなど、音声を正しく認識することが出来なくなってしまいます。当研究室では、雑音が混入した音声から、雑音を低減したり、音声の特徴を強調する、または雑音の影響を受けない画像情報を利用するなどして、音声認識の改善方法について研究しています。また、新しいテーマとしまして、皆様も周囲が騒がしいと無意識のうちに大声を出してしまう経験があると思います。大声を出してしまうと音声は歪んでしまい（ロンバード効果）、正しい音声認識にも支障をきたしてしまいます。この現象を考慮した音声認識の改善方法についても、近年から研究テーマとして着手し始めています。

当研究室では、すべての学生がひとつの部屋に会しており、研究テーマの垣根を越えて、全員がお互いに切磋琢磨しながら日々の研究に励んでいます。



### 応用化学科 氏家・守山研究室 M1 秦 隼人

2013年度現在では、氏家誠司教授ならびに守山雅也准教授のもと、吉見剛司助教、岩見裕子技術職員、那谷雅則教務員、研究支援者1名、博士2年1名、修士2年4名、1年3名、学部4年13名で構成されており、この研究室では主に有機化合物を用いたソフトマテリアルについて研究、開発を行っています。

具体的には化粧品などにも用いられている界面活性剤についての研究や、光応答により性質変化を起こす化合物について研究を行っており、主に液晶やゲルなどの新規物質の合成と基礎研究の確立を行っています。また、これらの物質が、どのような構造を作り出すのか、構造と発現する特性との関係はどうなっているのかなどを調べています。

有機化合物を主体としたテーマによって、ゲル化剤、イオン伝導性材料および高分子ナノコンポジットの開発、液晶材料の高機能化、生分解性高分子材料などについて様々なテーマのもとに研究を行い、フォトクロミズムなどを示す光反応性分子とゲルを組み合わせた光機能性材料の開発など幅広く行っています。

行事としては新入生と歓迎会や、バレーボール大会、ゼミ旅行などを通して親睦を深め、研究においては個々のテーマについてしっかり取り組み、メリハリのある大学生活をおくっています。

### 福祉環境工学科建築コース 建築構造学研究室 助教 黒木 正 幸

卒業生の皆様におかれましては、元気にご活躍のことと存じます。

建築コース（旧建設工学科）は1977年（昭和52年）に設置され、（1）建築環境、（2）建築計画・都市計画、（3）建築材料・施工、（4）建築構造の4分野で構成されています。翔工の「研究室だより」は、この4つの分野間の輪番で寄稿しています。本号は建築構造学研究室で担当しております。前号を担当して以降の4年間いろんなことがありましたが、その中から2012年に開かれた当研究室の同窓生集会について書きます。

これまでに当研究室を卒業・修了した人は、1980年（昭和55年）に第1期生が卒業して以来400人強を数えます。2005年（平成17年）には「吉村浩二先生を偲ぶ集い」が開かれましたが、それ以降しばらく時間が過ぎようとしていたことから、2011年秋に田中昭洋氏（第7期生）を代表幹事とする第1回幹事会が開かれ、同窓生集会の準備がスタートしました。

ちょうど1年後の2012年10月に大分市内のホテルで集会が開かれ、歴代の教職員とおよそ100人の卒業生の参加がありとても盛大な会となりました。写真は参加者の半分以上を撮影したものです（全員を1枚に収めることはできませんでした）。集会の席上、この集会はオリンピックの年に合わせて開催することが決まり、次回の代表幹事には熊本明弘氏（第14期生）が指名されました。



## 「着任のご挨拶」

### 福祉環境工学科メカトロニクスコース 准教授 菊池 武士



私は、2003年に大阪大学大学院工学研究科電子制御機械工学専攻博士前期課程を修了した後、大阪府立産業技術総合研究所、大阪大学大学院工学研究科助手、山形大学大学院理工学研究科テニユアトラック助教、同准教授を経て、2013年10月より大分大学工学部福祉環境工学科メカトロニクスコースに着任いたしました。私の研究テーマは医療・健康・福祉分野へのロボット技術、バーチャルリアリティ技術、および機能性材料の応用です。



次世代ロボット技術はヒトとの接触を前提としているものが多く、これまでのロボティクス・メカトロニクス機器以上に安全性への配慮が重要な課題となります。本研究室では真の人間中心ロボティクスを目指して、医療系研究者、地域医療施設等との共同研究を実施しています。今後は学術的基礎研究だけでなく、地域貢献できるような実践的な研究課題も実施したいと考え現所属を希望しました。具体的な研究ニーズ等がございましたらどうぞご連絡ください。

詳細は研究室ホームページ

(<http://www2.hwe.oita-u.ac.jp/kikuchilab>) をご覧ください。(大学院棟4階)

# 会員だより

## 「学生時代と社会人2年間を振り返って」

平成24年電気電子工学専攻  
電気コース修了 甲斐孝幸



－休日、京都清水寺にて－

同窓生の皆様、こんにちは、平成24年修了生の甲斐と申します。この度は寄稿のお話頂き大変光栄に思います。

私は、大分高専の専攻科修了後、大分大学の大学院に入学しました。2年間のみでしたが、濃い時間を大分大学で過ごせたと思っています。私が在籍していた電気工学研究室では、榎園先生、戸高先生、樋田先生を中心に指導いただき、在学中には海外で開催された国際学会などに数回参加するなど、貴重な体験をさせていただきました。このとき様々な面で私をサポートしてくれ、好きなことができる自由な時間を与えてくれた両親のありがたみは、就職した今では大変強く感じております。

現在は兵庫県に住んでおり、三菱電機株式会社の先端技術総合研究所に勤務しています。現在の業務内容は、遮断器（ブレーカー）といった開閉装置に関する技術開発です。大学時代に学んだ磁気計測や磁界解析などの技術も活かしながら、業務に取り組んでいます。無論、大学で学んだことだけで仕事を進められるわけではなく、機械工学といった専門外の知識が必要になったり、あるいは効率的な仕事の進め方を考えたりと、勉強しなくてはと、学生時代よりも思う日々です。

社会人になって身にしみて思う事ですが、学生時代は社会人よりも圧倒的に自由な時間があります。その時間を有効に活用して様々な経験をすることが、社会に出た時の肥やしになると思います。学生の方には、与えられた自由な時間を有効に使って、有意義な学生生活を送っていただきたいと思います。

最後になりますが、同窓会員の皆様のご健勝とさらなる活躍をお祈り致します。

### 大分大学工学部同窓会 Facebook開設のお知らせ

同窓会長 松尾孝美

翔工会のFacebookを、東京支部副支部長の豊田耕一さんに開設していただきました。これから、内容を増や

していきたく思いますので、どうぞ、ご利用をよろしくお願いいたします。

Googleで、「大分大学工学部同窓会」で検索すると、以下のように、Facebookページを見つけることができます。



### 先生の訃報のお知らせ

平成24年度に機械・エネルギーシステム工学科をご退職されました土居 滋先生が平成25年2月27日に永眠されましたことを謹んでご報告させていただきます。生前のご恩に感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

### 訃報

次の方の訃報に接しました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

機械・エネルギーシステム工学科  
(エネルギー工学教室) 土居 滋 先生

機 械 平成8年卒 藤野 和明 様

(平成24年9月28日)

## 翔工会ウェブページ および 工学部ホームページのお知らせ

### ・ ホームページのURL

<http://shokou.csis.oita-u.ac.jp>

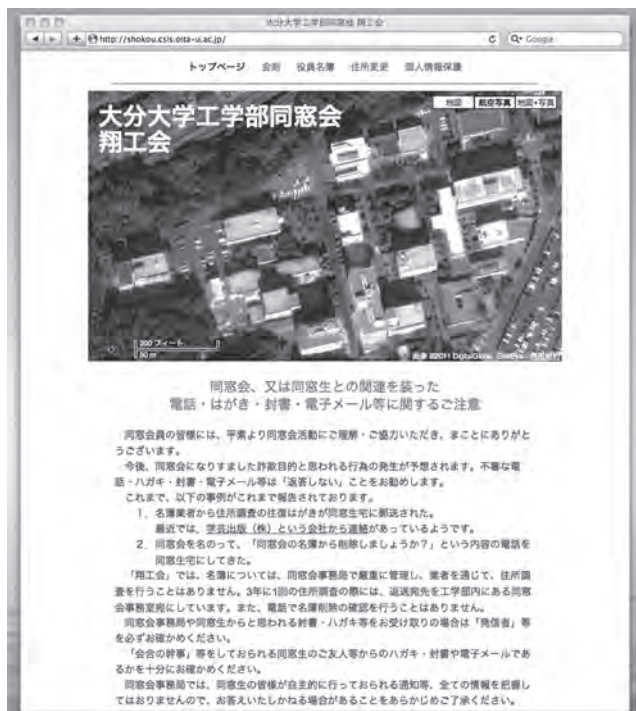
各部会毎に掲示板も用意していますので、ご利用ください。住所変更もできます。

### ・ ホームページに関する質問や要望

同窓会活動に関する質問、要望等ございましたら、

[shokou-request@oita-u.ac.jp](mailto:shokou-request@oita-u.ac.jp)

までご連絡ください。



## 工学部ホームページのお知らせ

### ・ ホームページのURL

<http://www2.cc.oita-u.ac.jp/eng/index.html>

各学科のホームページも紹介しております。

今現在の工学部・各学科の様子をぜひご覧ください。



### 編集後記

機関誌発行委員長 福祉環境工学科建築コース 黒木正幸

翔工第24号の発行にあたり、お忙しいところ快くご執筆をお引き受けくださいました先生方、卒業生、在校生の皆様にご心より御礼申し上げます。また、本号発行にご協力いただきました各部会の機関誌編集委員の方々へ感謝いたします。これからも会員情報誌として本誌の発行を続けていきますので、近況報告などのご寄稿や様々な情報をお寄せいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を祈念いたします。